

## 合理的配慮の提供事例報告書【小学校】

### 事例の概要

不注意や衝動性による読み誤りや勝手読みがあることから、読むことによる負担が軽減されるよう、音声教材を家庭と通級による指導で活用している。

#### 1 対象児童の障害種

学習障害(LD)

注意欠陥多動性障害(ADHD)

自閉症

#### 2 障害の程度

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

#### 3 在籍状況

小学校・通級による指導

#### 4 学年

小3

#### 5 対象児童の実態

就学時より、聞き誤りや聞きもらしが多く、ひらがなの読み書きでのつまずきが見られた。知的には遅れが見られず、指示を聞き取る力も問題は見られないが、聞きもらしや注意の持続が難しいことから、指示を誤解して聞いたり、自分の名前も書き誤ったりすることがある。計算などでも大人が横についていると正しくできるが、一人で取り組む環境では正答率が3割を切ることがある。その瞬間見たことや聞いた情報から思い込みやすいことで、友達とのトラブルにつながることもある。医療との連携を図り、聞き取りによる内容理解は年齢相応であることから、音声教材を使ってルビを打つ練習やひらがなの特殊音節の標記ルールを学習すること、言葉で伝えあうことについての学習を通級による指導で行う。

#### 6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

- 1 学習面のつまずきに関しては、保護者からの相談があった。
- 2 支援の必要性の有無についての相談を担当が受けたことから、特別支援教育コーディネーターとも面談し、「学習、生活上の困難を改善するための配慮」を保護者が希望される。
- 3 A病院の小児科で言語聴覚士、作業療法士によるアセスメントののち、半年間の療育を受ける。保護者の希望で担任と特別支援教育コーディネーターと言語聴覚士との面談を行い、校内での学び方の工夫の必要性が感じられたことから通級による指導を開始した。言語聴覚士と特別支援教育コーディネーターとの支援方法の検討の中で、音声教材の有用性が感じられたことから、特別支援教育コーディネーターが音声教材の利用申請を行う。

## 7 基礎的環境整備の視点と概要

### 基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

入学時より、支援内容が継続されるように、保護者同意のもと、個別の教育支援計画を作成した。個別の指導計画については、学期ごとに評価を行う。読み書きに関しては、担任と保護者が連絡を取り合うことを中心に、特別支援教育コーディネーターが助言を行い、医療機関との連携も開始した。

### 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導

保護者が通級による指導を希望したが、まずは学級でできることや工夫について校内委員会でも検討した。  
通級による指導が開始されてからは、通常学級における座席の配慮や授業時間にできる工夫については、通級担当が助言を行っている。通級による指導は週当たり1時間実施している。

## 8 合理的配慮の観点と概要

### 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

基本的には他の児童と同じように学習を行うが、誤って学習すると修正できにくいことから、思い込みや聞きもらしを防げるよう、通級による指導の中で「どうやったら覚えやすいか」など、自分に合った学習方法を身につけられるように練習し、家庭学習などに生かせるよう保護者に情報提供をしている。  
視覚的な刺激に反応しやすいことから、在籍学級では見本になる子が近くの前になるようにすることで、聞きもらした情報を視覚的にとらえるようにしている。

### 合理①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

勝手読みや思い込みによる誤解が軽減するよう、音声教材を使って自分で正しく読みがなが打てるようにしたり、宿題の本読みがスムーズになるようにしたりしている。  
友達との関係づくりに関しては、本児の言葉をしっかり聞き取って「どうしたかったか」という思いに寄り添いながら社会的なルールやかかわり方について伝えるようにしている。

## 9 成果と課題

保護者からの支援の希望があったことで、スムーズに具体的な支援が開始できたことが成果である。本児自身が「こうするとうまくいく」と感じられることで、「こうしてほしい」といった合理的配慮の申し出につながるのではないかとと思われるが、「みんなと一緒にがいい」と本人が願うときに、支援は継続できにくくなることから、小学校などの学齢期においては、「人とつながってうまくいった経験」「こうすればうまくいくと感じる経験」を大事にしていくことと、学級経営の中での多様性を認める関係づくりが必要である。それに向けて、無理のない範囲で校内の職員全てに専門性を高める研修を継続していくことが必要であると思われる。